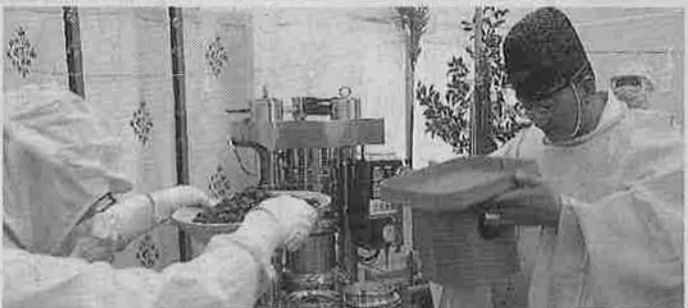


# 新神殿の椿油を「搾り初め」

## 岡崎のメーカー

伊勢神宮の式年遷宮で、新たな神殿の燭台で、最初にもとめられる灯りの燃料となる椿油の「搾り初め」が25日、愛知県岡崎市の食用油メーカー・太田油脂であった。作られた約16キロの油は木箱に入れて8月23日に伊勢神宮に奉納される。



伊豆諸島産のツバキの実(中央)を使った「搾り初め」が行われた。愛知県岡崎市

式年遷宮  
2013

椿油は燃焼時に出るすすの量が少なく、空気を汚さないため、神殿での灯りにふさわしいとされる。同社は1902年創業の老舗で、同社製の椿油が遷宮で使われるのは2回目。

この日は神事のあと、細かく砕かれたツバキの実が機械に入れられ、最初の椿油がしみ出してくると、工場内で歓声が上がった。太田健介社長は「20年に一度の遷宮に油を納められることは我が社の誇りです」と述べた。